

その常識、変えてみせる。

SHIFT



2024年8月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年4月11日

上場会社名 株式会社SHIFT 上場取引所 東
コード番号 3697 URL <https://www.shiftinc.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 丹下 大
問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼CFO (氏名) 服部 太一 (TEL) 03-6809-1165
四半期報告書提出予定日 2024年4月12日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2024年8月期第2四半期の連結業績(2023年9月1日~2024年2月29日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年8月期第2四半期	52,305	29.6	4,685	△7.8	4,833	△10.6	2,977	36.2
2023年8月期第2四半期	40,343	35.1	5,082	32.8	5,408	27.3	2,185	△17.9

(注) 包括利益 2024年8月期第2四半期 2,857百万円(21.4%) 2023年8月期第2四半期 2,353百万円(0.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年8月期第2四半期	169.30	169.10
2023年8月期第2四半期	123.96	123.79

(注) 1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に用いられた普通株式の期中平均株式数の算出に当たり、「株式給付型ESOP信託口」が保有する当社株式の期中平均株式数を控除する自己株式数に含めております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年8月期第2四半期	62,241	32,443	51.0
2023年8月期	49,530	29,578	58.5

(参考) 自己資本 2024年8月期第2四半期 31,763百万円 2023年8月期 28,958百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年8月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2024年8月期	—	0.00	—	—	—
2024年8月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年8月期の連結業績予想(2023年9月1日~2024年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	114,000~ 122,000	29.5~ 38.6	11,600~ 14,600	0.3~ 26.2	11,600~ 14,600	△3.3~ 21.7	7,300~ 10,000	16.9~ 60.1	415.17~ 568.72

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規	7社(社名)	株式会社ヒューマンシステム、株式会社ヒューマンシステムテクノロジー、インフィニック株式会社、株式会社SHIFT Enterprise Consulting、株式会社ネットワールド、株式会社クラブネッツ、株式会社バリューワン
除外	3社(社名)	株式会社IFTEC、株式会社さうなし、株式会社ヒューマンシステムテクノロジー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P.12「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご参照ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年8月期2Q	17,826,878株	2023年8月期	17,823,114株
② 期末自己株式数	2024年8月期2Q	227,584株	2023年8月期	239,804株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2024年8月期2Q	17,586,511株	2023年8月期2Q	17,629,535株

(注) 期末自己株式数には、「株式給付型ESOP信託口」が保有する当社株式(2024年8月期2Q 227,040株、2023年8月期 239,340株)が含まれております。また、期中平均株式数の算出に当たり、「株式給付型ESOP信託口」が保有する当社株式の期中平均株式数を控除する自己株式数に含めております。(2024年8月期2Q 239,137株、2023年8月期2Q 182,707株)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	6
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	7
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	8
(1) 四半期連結貸借対照表	8
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	9
第2四半期連結累計期間	9
四半期連結包括利益計算書	10
第2四半期連結累計期間	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	12
(セグメント情報等)	12
(企業結合等関係)	13
(収益認識関係)	14
(重要な後発事象)	14

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営成績に関する説明

① 当第2四半期における業績

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあり、国内経済は緩やかに回復しております。一方で、世界的な金融引き締めに伴う影響や海外景気の下振れなどもあり国内外における経済的な見通しは不透明な状況が続いております。

当社グループがサービスを提供するソフトウェア関連市場においては、「2025年の崖」（複雑化・老朽化・ブラックボックス化した既存システムが残存した場合に想定される国際競争力の低下や我が国経済の停滞など）が迫りくる中で、産業界全体に変革を起こすDX（デジタル・トランスフォーメーション）という概念が浸透し続けております。その中で、既存システムをクラウド環境などへ移行を図ることでコスト削減を実現する「守りのDX」とITを駆使して新ビジネスを立ち上げる「攻めのDX」の両方に対し、サービス提供が出来る人材の確保や育成、再教育（リスキリング）が重要になると考えております。

また、リモートワークの進展により、ネットワークやアプリケーションを中心として社会全体におけるセキュリティ領域への注目が集まる中、マルウェアへの感染やソフトウェアの脆弱性を悪用した攻撃等によるセキュリティリスクの顕在化が進み、その重要性は一層高まってきております。

こうした経営環境の中、当社グループでは売上高1,000億円企業に向けた成長戦略「SHIFT1000ーシフトワンサウザンドー」を掲げており、その実現に向け、引き続き営業力の強化による顧客基盤の拡大、構造化・数式化され科学されたM&A戦略の実現、IT業界の構造変化に合わせたサービス提供力の向上、多様な人材獲得手法の展開を重点課題として取り組んでおります。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間における、当社グループの業績は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前期	当期	増減	増減率
売上高	40,343	52,305	11,961	29.6 %
営業利益	5,082	4,685	△397	△7.8 %
EBITDA(※)	5,832	5,889	56	1.0 %
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,185	2,977	792	36.2 %

※EBITDAは、営業利益にのれん以外の無形固定資産を含む固定資産の減価償却費、のれん償却費を加算して算定しております。当社グループでは、将来の成長のための投資の源泉たる現金の創出力を測る指標として有用であると判断し、EBITDAもモニタリングの対象としております。

② 業績予測に対する進捗と主要なKPIの推移

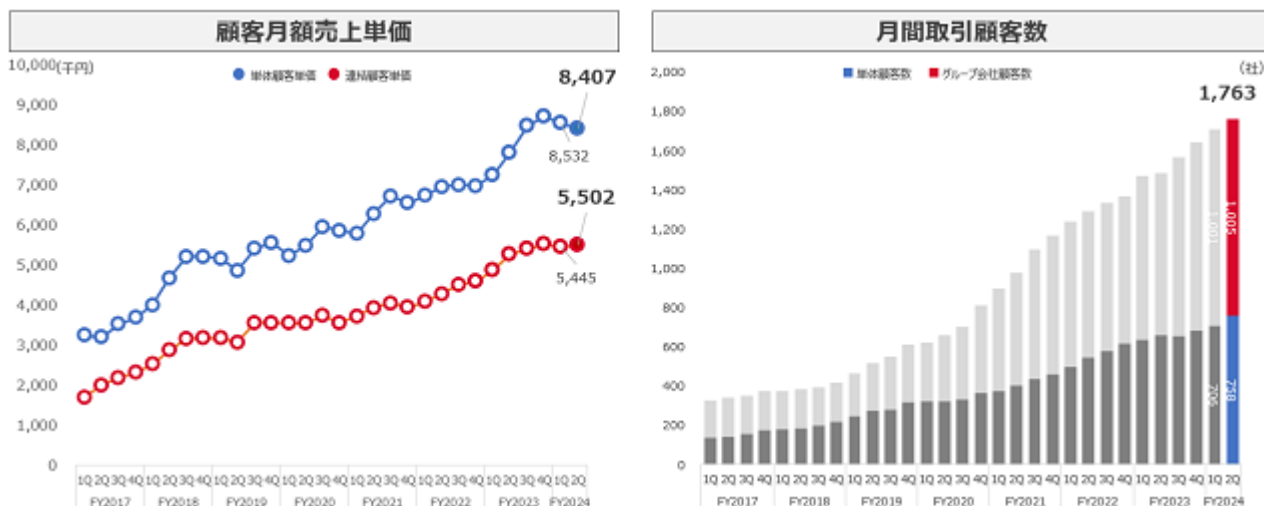
当社グループは、「新しい価値の概念を追求し、誠実に世の中に価値を提供する」という企業理念のもと、持続的に社会課題を解決する会社としての成長を目指しております。その実現のマイルストーンとして売上高目標を設定しており、企業理念の実現と企業価値の最大化を図ってまいります。なお、当第2四半期連結累計期間における業績予想値（第2四半期累計）に対する達成率は以下のとおりであります。

	業績予想値 (第2四半期累計) (百万円)	当第2四半期 実績値 (百万円)	達成率	(参考) 前第2四半期にお ける業績予想値(第 2四半期累計)に対 する達成率
売上高	52,000 ~ 55,000	52,305	100.6 % ~ 95.1 %	99.6 %
営業利益	4,600 ~ 5,400	4,685	101.9 % ~ 86.8 %	121.0 %
経常利益	4,600 ~ 5,400	4,833	105.1 % ~ 89.5 %	125.8 %
親会社株主に帰属 する四半期純利益	2,900 ~ 3,700	2,977	102.7 % ~ 80.5 %	80.9 %

上記のとおり、当第2四半期連結累計期間の連結業績は、売上高成長を伴った業績予想値という目標のなか、売上高は順調に推移しております。また、当第2四半期連結累計期間において、順調な採用に対し相対的に案件獲得

が遅延し稼働率が低下したことや、積極的なM&Aの推進に伴うアドバイザー費用等の一過性のコストを計上したことにより、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は売上高ほどの伸びとはなりませんでした。

一方、顧客単価、顧客数、エンジニア単価、エンジニア数などのKPIは上昇トレンドを継続しておりますが、当第2四半期連結累計期間においては、前述の稼働率低下などを背景に一時的に減少しているKPIもあります。当第2四半期連結累計期間におけるこれらの指標及び2017年8月期からの四半期ごとの推移は以下のとおりであります。



顧客月額売上単価及び月間取引顧客数の算出方法は、以下のとおりであります。なお、これらの計算における売上高には、顧客単価や顧客数をKPIとして業績を管理することが適切ではないと認められる一部の事業（ライセンス販売や教育サービス等）に係る売上高を含めておりません。

(ア) 顧客月額売上単価（単体）

$$\text{顧客月額売上単価（単体）} = \frac{\text{単体売上高}}{\text{単体顧客数（合計）}}$$

単体売上高	売上高と、売上計上予定額（稼働は開始しているが検収前のため翌月以降に計上される予定の売上高）を当月の稼働の実績に基づいて月別に按分した額を、四半期で合計した数値
単体顧客数（合計）	売上高を計上した顧客数と、売上高を計上していないが稼働があった顧客数を四半期で合計した数値

(イ) 顧客月額売上単価（連結）

$$\text{顧客月額売上単価（連結）} = \frac{\text{単体売上高} + \text{連結子会社売上高}}{\text{単体顧客数（合計）} + \text{連結子会社顧客数（合計）}}$$

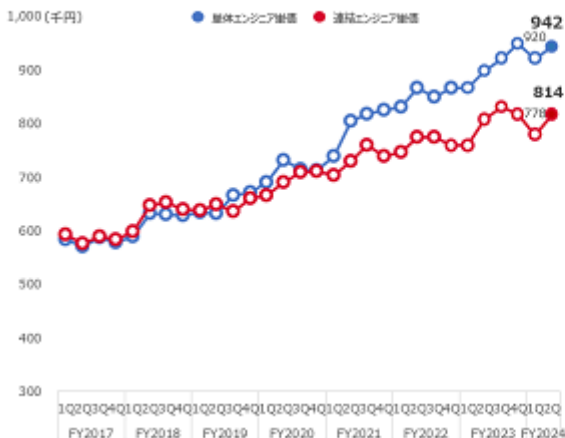
単体売上高	上記(ア)に記載のとおり
連結子会社売上高	月次の売上高を四半期で合計した数値
単体顧客数（合計）	上記(ア)に記載のとおり
連結子会社顧客数（合計）	月次の売上高を計上した顧客数を四半期で合計した数値

(ウ) 月間取引顧客数

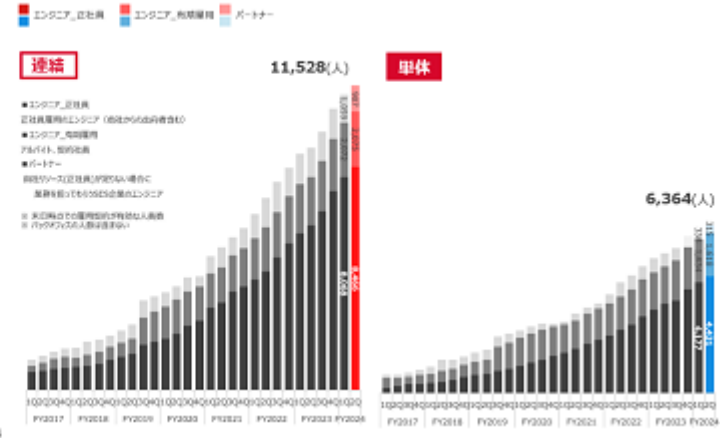
$$\text{月間取引顧客数} = \text{単体顧客数（平均）} + \text{連結子会社顧客数（平均）}$$

単体顧客数（平均）	その月に売上高を計上した顧客の数と、その月に売上高を計上していないが稼働があった顧客の数を合計し、四半期で平均した数値
連結子会社顧客数（平均）	その月に売上高を計上した顧客の数を四半期で平均した数値

エンジニア単価推移



エンジニア数推移



エンジニア単価及びエンジニア数推移の算出方法は以下のとおりであります。なお、これらの計算における売上高には、エンジニア単価として業績を管理することが適切ではないと認められる一部の事業（ライセンス販売や教育サービス等）に係る売上高を含めておりません。

(ア) エンジニア単価（単体）

$$\text{エンジニア単価（単体）} = \frac{\text{単体売上高}}{\text{単体エンジニア数}}$$

単体売上高	エンジニアが稼働しない売上高を除く売上高
単体エンジニア数	売上を計上した案件に係る稼働があったエンジニアの稼働時間と、その管理に携わった人員の稼働時間を合計し、人月換算した数値

(イ) エンジニア単価（連結）

$$\text{エンジニア単価（連結）} = \frac{\text{単体売上高} + \text{連結子会社売上高}}{\text{単体エンジニア数} + \text{連結子会社エンジニア数}}$$

単体売上高	上記(ア)に記載のとおり
連結子会社売上高	月次の売上高を四半期で合計した売上高
単体エンジニア数	上記(ア)に記載のとおり
連結子会社エンジニア数	月次の所属エンジニア数を四半期で合計した数値

(ウ) エンジニア数推移

エンジニア数推移におけるエンジニア数は、四半期末時点において、雇用契約が締結されている当社グループの正社員、契約社員及びアルバイトの所属人数並びに協力会社の従業員契約者数の合算数値であります。

③ セグメント別の業績

セグメント別の業績は次のとおりであります。

(ア) ソフトウェアテスト関連サービス

(単位：百万円)

	前期	当期	増減	増減率
売上高	26,820	33,844	7,024	26.2 %
売上総利益	9,407	11,478	2,071	22.0 %
販売費及び一般管理費	3,249	3,963	714	22.0 %
うち取得関連費用	21	216	195	929.5 %
うちのれん償却費	1	1	△0	△0.0 %
営業利益	6,158	7,515	1,357	22.0 %
EBITDA	6,235	7,611	1,375	22.1 %

ソフトウェアテスト関連サービスでは、主にソフトウェアテスト・品質保証、コンサルティング・PMO、カスタマーサポート、セキュリティといったサービスを提供しております。

当第2四半期連結累計期間では、既存顧客の売上拡大が奏功し、当第2四半期連結累計期間のソフトウェアテスト関連サービスの売上高は33,844百万円（前年同期比26.2%増）、営業利益は7,515百万円（前年同期比22.0%増）となりました。

また、ソフトウェアテスト関連サービスセグメントの販売費及び一般管理費に含まれているM&Aに係る取得関連費用は、216百万円（前年同期比929.5%増）となっております。

(イ) ソフトウェア開発関連サービス

(単位：百万円)

	前期	当期	増減	増減率
売上高	12,301	16,769	4,468	36.3 %
売上総利益	3,278	4,031	752	23.0 %
販売費及び一般管理費	2,240	3,412	1,172	52.3 %
うち取得関連費用	29	5	△24	△81.8 %
うちのれん償却費	235	409	174	74.0 %
営業利益	1,038	619	△419	△40.4 %
EBITDA	1,346	1,113	△233	△17.3 %

ソフトウェア開発関連サービスでは、主にシステム開発、システム性能改善、IT戦略策定、システム企画・設計、エンジニアマッチングプラットフォーム、データ分析などのソフトウェア開発プロセスに直接的に関与するサービスを提供しております。

当第2四半期連結累計期間では、積極的なM&Aを推進したことに加え、順調なエンジニア採用によって、当第2四半期連結累計期間のソフトウェア開発関連サービスの売上高は16,769百万円（前年同期比36.3%増）となりました。一方、一部の連結子会社において、順調な採用に対し相対的に案件獲得が遅延し稼働率が低下したことにより、営業利益は619百万円（前年同期比40.4%減）となりました。

(ウ)その他近接サービス

(単位：百万円)

	前期	当期	増減	増減率
売上高	3,089	3,639	549	17.8 %
売上総利益	1,060	1,401	341	32.1 %
販売費及び一般管理費	822	1,494	671	81.7 %
うち取得関連費用	—	62	62	— %
うちのれん償却費	208	307	98	47.3 %
営業利益又は営業損失	238	△92	△330	— %
EBITDA	554	419	△134	△24.3 %

その他近接サービスでは、主にWeb企画制作、マーケティング、キッティング、クラウドサービス、ローカライズ、M&A/PMI (Post Merger Integration)、エンジニアを含む人材の育成など、ソフトウェア開発と近接するマーケットで、当社の既存事業とは異なるビジネスモデルに基づくサービスを提供しております。

当第2四半期連結累計期間では、積極的なM&Aを推進したことに伴う戦略投資が一時的に嵩んだことに加え、一部の連結子会社における事業特性上の季節要因によって収益性が悪化した結果、当第2四半期連結累計期間のその他近接サービスの売上高は3,639百万円（前年同期比17.8%増）、営業損失は92百万円（前年同期は238百万円の営業利益）となりました。なお、その他近接サービスセグメントの販売費及び一般管理費に含まれているM&Aに係る取得関連費用は、62百万円となっております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産につきましては、前連結会計年度末に比べ12,710百万円増加し、62,241百万円となりました。これは主に、本社移転等に伴い有形固定資産が4,588百万円、株式会社クラブネッツ等の取得によりのれんが3,792百万円、借入等により現金及び預金が1,759百万円増加したこと等によるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債につきましては、前連結会計年度末と比べ9,845百万円増加し、29,797百万円となりました。これは主に、法人税等の納付により未払法人税等が893百万円減少したものの、運転資金等の確保を目的とした新規借入により短期借入金が3,500百万円、M&A資金の確保を目的として新規借入により長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）が5,068百万円増加したこと等によるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産につきましては、前連結会計年度末と比べ2,864百万円増加し、32,443百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が2,977百万円増加したこと等によるものであります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）の残高は、前連結会計年度末より1,772百万円増加した結果、19,324百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況とその要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において営業活動によるキャッシュ・フローは556百万円の収入（前年同期は2,618百万円の収入）となりました。これは主に、売上債権の増減額965百万円及び法人税等の支払額2,907百万円、未払消費税等の増減額1,210百万円の資金の減少要因があったものの、税金等調整前四半期純利益の計上4,833百万円等の資金の増加要因があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において投資活動によるキャッシュ・フローは6,836百万円の支出（前年同期は1,364百万円の支出）となりました。これは主に、株式会社クラブネット等の子会社株式取得により、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出4,634百万円並びに、当社の本社・新宿第1オフィスの設備新設等により、有形固定資産の取得による支出2,340百万円等の資金の減少要因があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において財務活動によるキャッシュ・フローは8,052百万円の収入（前年同期は2,388百万円の収入）となりました。これは主に、運転資金及びM&A資金を目的として、長期借入れによる収入5,800百万円や短期借入金の純増減額3,500百万円等の資金の増加要因があったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年8月期の業績予想につきましては、2023年10月12日に公表いたしました連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2024年2月29日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	17,591	19,351
受取手形、売掛金及び契約資産	11,048	12,667
棚卸資産	733	1,119
その他	1,149	1,561
貸倒引当金	△9	△14
流動資産合計	30,513	34,684
固定資産		
有形固定資産	1,961	6,550
無形固定資産		
のれん	8,997	12,789
その他	1,431	1,464
無形固定資産合計	10,428	14,253
投資その他の資産		
投資有価証券	3,081	3,082
その他	3,602	3,739
貸倒引当金	△56	△68
投資その他の資産合計	6,627	6,752
固定資産合計	19,017	27,556
資産合計	49,530	62,241
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,530	1,669
短期借入金	2,470	5,970
1年内返済予定の長期借入金	1,066	2,074
未払費用	3,891	4,151
未払法人税等	2,807	1,913
賞与引当金	341	416
受注損失引当金	—	11
その他	6,212	7,788
流動負債合計	18,319	23,995
固定負債		
長期借入金	1,367	5,427
退職給付に係る負債	34	32
その他	230	342
固定負債合計	1,632	5,801
負債合計	19,951	29,797
純資産の部		
株主資本		
資本金	11	15
資本剰余金	15,844	15,848
利益剰余金	17,901	20,879
自己株式	△4,948	△4,941
株主資本合計	28,809	31,801
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	118	△67
為替換算調整勘定	30	29
その他の包括利益累計額合計	148	△37
株式引受権	140	218
新株予約権	27	29
非支配株主持分	451	431
純資産合計	29,578	32,443
負債純資産合計	49,530	62,241

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年9月1日 至2023年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年9月1日 至2024年2月29日)
売上高	40,343	52,305
売上原価	26,783	35,741
売上総利益	13,560	16,563
販売費及び一般管理費	8,477	11,878
営業利益	5,082	4,685
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	63	66
助成金収入	263	50
その他	10	59
営業外収益合計	337	176
営業外費用		
支払利息	7	16
為替差損	2	2
支払手数料	0	1
事務所移転費用	—	5
その他	0	2
営業外費用合計	11	28
経常利益	5,408	4,833
特別損失		
投資有価証券評価損	1,573	—
特別損失合計	1,573	—
税金等調整前四半期純利益	3,834	4,833
法人税等	1,490	1,788
四半期純利益	2,344	3,044
非支配株主に帰属する四半期純利益	159	66
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,185	2,977

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年9月1日 至2023年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年9月1日 至2024年2月29日)
四半期純利益	2,344	3,044
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	16	△185
為替換算調整勘定	△7	△0
その他の包括利益合計	9	△186
四半期包括利益	2,353	2,857
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,194	2,790
非支配株主に係る四半期包括利益	158	66

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年2月29日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,834	4,833
減価償却費	305	486
のれん償却額	445	718
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	6	12
賞与引当金の増減額 (△は減少)	25	0
受注損失引当金の増減額 (△は減少)	△27	11
受取利息及び受取配当金	△63	△66
支払利息	7	16
助成金収入	△263	△50
為替差損益 (△は益)	2	△1
投資有価証券評価損益 (△は益)	1,573	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△1,283	△965
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△29	△360
前払費用の増減額 (△は増加)	△144	△270
仕入債務の増減額 (△は減少)	△50	△124
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△428	△1,210
未払金及び未払費用の増減額 (△は減少)	△49	65
その他	△22	274
小計	3,838	3,367
利息及び配当金の受取額	63	66
利息の支払額	△7	△21
助成金の受取額	263	50
法人税等の支払額	△1,538	△2,907
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,618	556
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	—	160
有形固定資産の取得による支出	△460	△2,340
無形固定資産の取得による支出	△94	△18
投資有価証券の取得による支出	—	△299
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△122	△4,634
敷金の差入による支出	△693	△18
敷金の回収による収入	5	386
その他	1	△70
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,364	△6,836
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	3,000	3,500
長期借入れによる収入	—	5,800
長期借入金の返済による支出	△610	△801
株式の発行による収入	1	1
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	—	△434
自己株式の取得による支出	△0	△2
その他	△2	△9
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,388	8,052
現金及び現金同等物に係る換算差額	△6	△0
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	3,637	1,772
現金及び現金同等物の期首残高	12,899	17,551
現金及び現金同等物の四半期末残高	16,536	19,324

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年9月1日 至 2023年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	ソフトウェア テスト関連 サービス	ソフトウェア 開発関連 サービス	その他近接 サービス	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	26,752	10,943	2,648	40,343	—	40,343
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	68	1,358	441	1,868	△1,868	—
計	26,820	12,301	3,089	42,212	△1,868	40,343
セグメント利益	6,158	1,038	238	7,435	△2,352	5,082

(注) 1. セグメント利益の調整額△2,352百万円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等の全社費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2023年9月1日 至 2024年2月29日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	ソフトウェア テスト関連 サービス	ソフトウェア 開発関連 サービス	その他近接 サービス	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	33,794	15,389	3,121	52,305	—	52,305
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	49	1,380	517	1,948	△1,948	—
計	33,844	16,769	3,639	54,253	△1,948	52,305
セグメント利益 又は損失(△)	7,515	619	△92	8,042	△3,357	4,685

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△3,357百万円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等の全社費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第2四半期連結会計期間において、株式会社クラブネッツの全株式を取得し連結の範囲に含めております。これにより、前連結会計年度の末日に比べ、「その他近接サービス」セグメントの資産の金額が6,190百万円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

当第2四半期連結会計期間において、株式会社クラブネッツの全株式を取得し連結の範囲に含めております。これによる、当第2四半期連結累計期間における「その他近接サービス」セグメントののれんの増加額は3,773百万円であります。なお、発生したのれんの金額は、当第2四半期連結会計期間末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算出された金額であります。

(企業結合等関係)

(取得による企業結合)

1. 株式会社クラブネッツの株式の取得

(1) 企業結合の概要

① 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称	株式会社クラブネッツ 他1社
事業の内容	・LINEを用いた販促サービス ・CNポイントによる販促サービス

② 企業結合を行った主な理由

株式会社クラブネッツは、顧客囲い込みノウハウを持ち、ポイントシステムやLINEを活用した販促サービスを展開しております。

特にエネルギー業界において多くの顧客を有し、安定的かつ成長も期待できる事業基盤を有しております。加えてLINE認定パートナーとしてトップの評価を受けるなど、デジタルマーケティング領域において確かなノウハウと実績があります。

一般的にサービス作りにおいては、顧客を獲得するだけでなく定着させることが重要であり、それがLTV (Life Time Value) を高めていくことにつながります。株式会社クラブネッツは、UIに優れ数多くのユーザー数を誇るLINEをベースにした販促支援サービスを展開しているため、これからのデジタルマーケティングにおいて非常に価値があると考え子会社といたしました。

③ 企業結合日

2024年2月1日

④ 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

⑤ 結合後企業の名称

結合前から変更はありません。

⑥ 取得する議決権比率

100%

⑦ 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式会社クラブネッツの株式を100%取得したためであります。

(2) 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

2024年2月1日から2024年2月29日まで

(3) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	5,750百万円
取得原価		5,750百万円

(4) 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー等に対する報酬・手数料等	167百万円
--------------------	--------

(5) 取得原価の配分に関する事項

① 発生したのれんの金額

3,773百万円

なお、上記の金額は暫定的に算定された金額です。

② 発生原因

主に、将来の事業展開によって期待される超過収益力であります。

③ 償却方法及び償却期間

10年にわたる均等償却

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第2四半期連結累計期間(自 2022年9月1日 至 2023年2月28日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			合 計
	ソフトウェアテスト 関連サービス	ソフトウェア開発 関連サービス	その他近接 サービス	
エンドユーザー企業	20,285	3,640	2,514	26,440
パートナー企業	6,466	7,302	134	13,902
顧客との契約から生 じる収益	26,752	10,943	2,648	40,343
外部顧客への売上高	26,752	10,943	2,648	40,343

当第2四半期連結累計期間(自 2023年9月1日 至 2024年2月29日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			合 計
	ソフトウェアテスト 関連サービス	ソフトウェア開発 関連サービス	その他近接 サービス	
エンドユーザー企業	25,062	4,851	2,936	32,850
パートナー企業	8,732	10,537	185	19,454
顧客との契約から生 じる収益	33,794	15,389	3,121	52,305
外部顧客への売上高	33,794	15,389	3,121	52,305

(重要な後発事象)

(多額な資金の借入)

当社は、2023年12月22日開催の取締役会決議事項の本社移転等にかかる設備資金の借入を2024年3月29日に実行しております。

借入先	三菱UFJ銀行	みずほ銀行
借入金額	1,750百万円	1,750百万円
借入金利	基準金利+スプレッド	基準金利+スプレッド
借入実行日	2024年3月29日	2024年3月29日
返済予定日	2027年3月29日	2029年3月29日
担保の有無	無	無
保証の有無	無	無